



WWF気候変動プログラム

- 南北アメリカ、ヨーロッパ、ロシア、中国、インド、日本などアジア太平洋諸国など、30カ国弱、50名ほどからなる、気候変動チームを編成 気候変動の問題に世界規模で関わっている
- 目標:地球の平均気温の上昇を、産業革命前から比べて2 未満に抑え、危険な気候変動を防止する。
- 活動内容
 - 温暖化の生態系への影響などを調べ、発表(ホッキョクグマのトラッキング、サンゴ礁など)、一般に問題の深刻性を警告、省エネなどを訴える
 - 対政府:京都議定書交渉、国内対策への提言・ロビー活動
 - 脱温暖化社会構築のためのエネルギービジョン、キャップ&トレードなどの削減政策提言
 - 対企業:クライメート・セイバーズ(企業との削減協定)、パワー・パイオニア(電力会社との省エネ、自然エネルギー導入、CO2削減に関する協定)





IPCC第4次評価報告書発表(2月2日) (WG1:自然科学的根拠)

- すでに温暖化は起きている。
- それは人間活動による温室効果ガスの排出増加によると断定。
- 20世紀後半の北半球の平均気温は過去1300年のうちで最も高温で、最近の12年間のうち1996年以外の年は1850年以降で最も暖かい12年である。
- 過去100年に世界の平均気温は**0.74** 上昇
- 21世紀末までの海面上昇は18cm ~ 59cm
- 2030年までは10年あたり0.2 気温上昇

【これは、植物が適応できる範囲(10年間に0.05)を越えている】

(出典 “Another reason for concern: regional and global impacts on ecosystems for different levels of climate change” R. Leemans, B. Eickhout, Global Environmental Change 14 (2004) 219-228)





© WWF-Canon / Martin HARVEY

ハリケーン・カトリナ(カテゴリー5)



2005年8月28日 NASA提供

異常気象の頻発

2003年夏の欧州における熱波



© WWF-Canon / Emma DUNCAN



北極は解け、ホッキョクグマが脅威にさらされている



©WWF-Canon/Jack Stein GROVE





「温暖化の目撃者」シンポジウム

ヒマラヤのルブ・シェルパさんのお話



- この20年の間に、多くの氷河が溶け、氷河湖は巨大化している
- 1985年8月には、ランモチェ氷河湖が決壊した。自分の家も流され、畑や牧場も流されすべてを失った。
- 近くの水力発電所や橋も流されたので、長い間、食料や供給が途絶えた。
- 温暖化により、こうした氷河の決壊が起こる可能性は高くなっている。
- 自分は祈るしかない



2005年10月8日





ヒマラヤでは氷河が溶け、巨大な氷河湖ができています



©Sandeep Chamling Rai



「温暖化の目撃者」シンポジウム

フィジーのペニーナ・モーゼさんのお話



- 海面上昇で、海岸線が侵食され、魚類を遠く深いところまで行かないと取れなくなった。
- 雨が降らず、飲み水が不足している。水をためるタンクが各村に2基しかなく、足りない。
- これは神の試練だと思っていたが、人間によるものと知った。人間が原因なら、人間が解決できるのではないかと思う。



2005年10月8日

